

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都足立区扇 3-5-12
園名	アスク扇保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感と音

<テーマの設定理由>

今年度の園の年間テーマである「ことば」と子どもたちの大好きなおんがくを結び合わせ、日常の中で聞こえる様々な音に興味を広げ、音を五感で感じながらイメージしたり、そのイメージをおんがくを通して友だちや保育者と共有したりすることで、表現する力を育てていきたいと思い、このテーマを設定した。探究活動の中でおんがく絵本を創り、生活発表会で発表することを目的として探究を進めた。

## 2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に1回おんがく専門講師を招いて、実際に様々な楽器に触れながらオノマトペ（ことば）の面白さや音の違い、音色と感情関連についてなど、子どもたちと一緒に考え、音への興味を広げられるよう探究をすすめた。

6月から9月：生活の中の音探し、オノマトペへの興味関心を広げる  
9月～12月：おんがく絵本創り（登場人物の感情と音の結びつき、劇に必要な音・衣装や小物創り）

1月～2月：おんがく絵本の発表（おんがくや音に感情をのせ表現し、伝えよう）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・楽器（ピアノ、木琴、鉄琴など）・・・部屋の環境に楽器コーナーを設置し、子どもたちがいつでも自由に楽器に触れ音色を感じられるようにした。

・絵本（80種類の物語）・・・昔話、童話、アンデルセン童話など様々な物語絵本を環境に取り入れ、毎日物語に触れることで、登場人物の感情を読み取ったり、物語の中で出てくる音を知る機会を多く設けた。

・音源・・・音の違いを聞き分けたり、音と感情の結びつきを考えたりするために使用  
・衣装、小道具・・・おんがく絵本の発表に使用

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

問いを考える：

知っている音はどんな音？おのまとペを通して様々な音を知ろうという問いかけをし、生活の中にどんな音が隠れているか、身近な音を探してみました。身近な音のカードを用意して、どの音が聞こえてきたか、子どもたちの反応に共感し、一緒に考えながら楽しめるようにしました。また、音楽があると物語がどのように聞こえてくるか、みんなで考え、物語の情景や登場人物の気持ちにあった音楽と一緒に考えていきました。

探究活動の様子：

「ガチャガチャドンドン」のオノマトペ絵本から、音を視覚で見ることでより楽しく音の興味を広げることから始め、たくさんの音を知った子どもたちはグループに分かれて、園の中を自由に探検し、生活の中にどんな音が隠れているかを探してみました。食器がぶつかる音「カチャカチャって音がする」袋をこすると「じゃりじゃりって音がする」などとたくさんの音を見つけて言葉にする姿が見られました。

おんがく講師からおんがく絵本を読んでもらい、おんがく絵本を知った子どもたちは、物語の途中で聞こえてくる音や音楽を真似してみたり、手を叩いたり足を踏み鳴らしたりと、一緒になって音を表現し、楽しみながら夢中になっていました。

おんがく絵本づくりでは木琴、鉄琴、すずやカスタネットなど、さまざまな楽器で音の違いを探究し、演じる物語の場面にあった音を出すためにはどんな楽器がいいかを話し合っ  
て考えました。時には楽器ではなく、藁の音を表現するためにティッシュを揺らしてみ  
るが音はです。床を爪でこすってみるとそれっぽい音になる事を発見していました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

探究を通して3歳児なりに感じたことや考えたことを言葉や表現で伝えようとする力が育  
っていることを改めて感じました。また、同じ物語でも感じ方や表し方は一人一人違い、  
友だちの表現を見て刺激を受ける姿も多く見られました。おんがく絵本という形で探究に  
取り組むことで、子どもたちが物語の世界をより身近に感じ、「ことば」や「音」「表現」  
が繋がっていく過程を大切にすることができました。

#### 【4 歳児実施分】

問いを考える：

知っている音はどんな音？おのまとペを通して様々な音を知ろうという問いかけをし、生活の中にどんな音が隠れているか、身近な音を探してみました。「音はどこからくるの？」「静かな音も音なの？」「これはどんな音かな？」と探究を進めるたびに色々な疑問が生まれ、目で見えない音を言葉や動きで表現しながら音への関心を広げていきました。

4 歳児クラスでは「クレヨンのくろくん」を題材にグループでおんがく絵本づくりを行い、「花火の音ってどんな音？」「クレヨンで紙に絵を描くときの音はどんな感じ？」など子どもたちと一緒に話し合いながら探究を進めていきました。

探究活動の様子：

音楽講師が演奏する音階の違う「キラキラ星」の聞き分けをすると、「優しい感じがする」「暗い」「強い」「小さい」などすぐに違いに気が付き、気づいたことをグループで発表し合ったり、音階の違いを体の動きで表現したりして楽しんでいました。音を探究していく中で楽器にも興味をもった子どもたち。保育室に楽器コーナーを設定すると、自由に楽器を鳴らしてみたり、お友だちと音を聞き合い比べたり、音の重なりを楽しむ姿が見られました。木琴や鉄琴は叩く場所によって音の高さが違うことに気が付いたり、複数のエッグシェイカーを順番に鳴らし、「どれも同じ音がするね」と気づく児もいました。クレヨンのくろくんを題材にしたおんがく絵本づくりでは、場面にあった音をグループごとに考えたり、登場人物の気持ちと音の繋がりを考えたりすることで、それぞれが役になりきり、自信をもって発表を楽しむことができていました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

探究に活動を進める中で子どもたちが疑問を持ったことに対して、保育者が音を決めたり正解を提示するのではなく、「この時はどんな音が合うと思う？」「この場面はどんな気持ちかな？」と問いかけ、子ども自身が考えて選べるように工夫する事で、子どもたちは自分なりの感じ方を言葉や音で表現しようとするようになり、友だちの音にも耳を傾けながら表現を作り上げていく姿に繋がりました。この探究活動を通して子どもたちは音を「鳴らすもの」から「感じ、伝えるもの」としてとらえるようになっていったと感じました。おんがく絵本の発表では一人一人が自信をもって音や動きを表現する姿が見られ、日々の探求の積み重ねが子どもたちの表情にしっかりと表れていたと感じました。

### 【5歳児実施分】

問いを考える：五感を使って音を感じてみよう。音は目に見えないけれど、音を絵に表してみたらどんな感じかな？と実際に子どもたちが気に入ったオノマトペを絵にして表現し発表しました。音を視覚で表現できることを知った子どもたちは、「どこからどんな音が聞こえてくるかな？」と生活の中でも耳を澄ませ、「今聞こえた音を絵にしてみよう」「冷たい感じの音だったね」など感じた事を話し合いながら過ごす姿が増えました。感情と音の結びつきに気付いた5歳児クラスでは「オオカミと7匹の子ヤギ」を題材におんがく絵本をつくってみたいという子どもたちのリクエストから、物語の場面にあった音を探求していきました。

探究活動の様子：音への関心を広げていく中で、音を視覚で表現することに興味を持ち、音を聞き、その音からイメージした事を自由に絵にして表現しました。「パンパン」という音を聞き、手のひらの絵を描いたり、「キラン」という効果音から流れ星や虹を描く見もしました。グループごとに発表し合うと、友だちの描いたオノマトペに刺激を受け、「おもしろい」「こんな音もあったよ」と意見を出し合い楽しむ姿が見られました。おんがく講師との探究の中で「おんがく絵本」を知った子どもたちは「自分たちでも作ってみたい」と興味関心をひろげ、それぞれが好きな物語を発表し合い、どんな物語を題材にしようかと、何度も話し合いを重ねて決めました。その中で、好きな物語りと、おんがく絵本にしやすい物語りに違いがある事にも気が付きました。場面に合った音楽を考え、イメージした音を講師にピアノで演奏してもらいながら、おんがく絵本づくりを進め、生活発表会で保護者にも披露し楽しんでいました。

ふりかえり(保育士の気付き)：子どもたちが正解を探すのではなく、自分なりの感じ方や表現方法を大切にできるよう、「どんな音が合うとおもう？」「どうしてそう感じたの？」などと問いかけながら探究を進めることを意識しました。また楽器だけでなく、身近な物や体の音にも目を向けられるようにし、子どもたちの気づきや発想を否定せずに受け止めることで、子どもたちの中に次々と疑問が生まれ、調べてみたり、試してみたりと自発的な探究活動に繋がっていたように感じます。子どもたちは音を通して登場人物の気持ちや物語の場面を深く考え、自分なりに表現しようとする力を持っていることに気が付きました。音に意識を向けることで普段何気なく過ごしている生活の中にも多くの音の発見がある事を楽しんでいる様子が見られた。おんがく絵本づくりを通して感じる力や考える力が自然と育まれていることを改めて感じました。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児



4 歳児



枚  
ので



5 歳児



# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都足立区扇 3-5-12
園名	アスク扇保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

Countries and cultur

<テーマの設定理由>

今年度、園の年間テーマが「ことば」なので日本の言葉だけでなく、世界には様々な国があり、それぞれに違った言葉や文化があることを知る事で、日本だけではなく世界に目を向け、異文化社会に親しみをもったり、世界に興味関心を広げることで視野が広がり、子どもたちの感性を育てていきたいと思い、テーマを設定しました。

## 2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に1回ネイティブの英語専門講師を招いて他国の文化に直接触れる機会を作ることで深く探究が出来るようにしました。  
6月から9月：他国について知ろう（インド・イタリア・フィリピン・ベトナム・カメルーン・オーストラリア）  
10月～12月：世界の文化を知り、体験してみよう（ハロウィン・クリスマス）  
1月～2月：日本の文化を知り、体験してみよう（正月・紙すき体験）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

様々な国の絵カード・写真付きパネル・・・国の紹介に使用

図鑑・国の絵本

国旗のぬりえ・国旗のマグネット

地球儀・世界地図・・・国の場所を調べるために使用

クロムブック・・・図鑑には載っていないことを自由に調べるために使用

ハロウィンの衣装・・・ハロウィンの雰囲気作りの為に使用

お正月遊び道具（羽根つき・凧揚げ・だるま落とし・福笑い・おみくじ）

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

問いを考える：

日本について子どもたちの知っていることを自由に話し合ってみよう。また発表していくなかで疑問に上がったことを調べてみよう。「日本ってどんな国？」

日本から世界に視野を広げ、世界の国について話してみよう。「国旗ってなに？どんな国旗があるのかな？」「世界の言葉で話してみよう」

探究活動の様子：

写真つきパネルや絵カードを使い、子どもたちが様々な国について知る機会をつくることから始めました。インドやフィリピンは馴染みのない子が多く、写真やイラストをみて「これはなに？」「日本にはないね」などと疑問を持ったり違いを発見する児の姿も見られました。中でも食文化の違いに興味を示す児が多かったことから、3歳児クラスでは実際にインドの料理である「サモサ」をクッキングで作って実食してみました。「ちょっと辛いね」「ジャガイモがはいっているね」などと実際に作って食べることでより親しみをもち、楽しむことができました。また保育室の地球儀を設置すると、自分たちで興味のある国を調べたり、「ここには、〇〇があるね」などと意欲的に話し探究を進めることができました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

親しみのない国についても探究を重ねることで、少しずつ理解を深め、国の名前を覚えたり、その国の言葉（挨拶）を使ってみたりと、国への興味関心が高まりました。

またクッキングを通して他国の料理を自分たちで作ってみた経験から、「こんな料理もあるんだ」とより身近に感じることができ、給食で提供される他国のメニューの日には「今日はどこの国のご飯かな？」と自ら調理職員に質問する姿も見られました。

またこのすくわく活動を通して、疑問を持ったり、調べたり、考えたりすることで友だち同士で刺激を受け、広い意味で「世界」を捉えたり、異文化を知るきっかけになったと感じます。

#### 【4 歳児実施分】

問いを考える：

日本について子どもたちの知っていることを自由に話し合ってみよう。また発表していくなかで疑問に上がったことを調べてみよう。「日本ってどんな国？」

日本から世界に視野を広げ、世界の国について話してみよう。「国旗ってなに？どんな国旗があるのかな？」「世界の言葉で話してみよう」

探究活動の様子：

写真つきパネルや絵カードを使い、子どもたちが様々な国について知る機会をつくることから楽しみました。英語を習っている子もいて、ネイティブ講師と積極的にやり取りをしながら探究に参加する姿が多く見られました。「ナマステ～」と実際にインドの言葉で友だち同士挨拶をしてみたり、インドの給食の写真を見て「ヨーグルトに葉っぱが入っている！？」など日本との違いや気づきを発表したりして楽しむ姿が見られました。イタリアについての探究では仮面舞踏会の写真から仮面に興味をもち、「作ってみたい！」という子どもたちの声からそれぞれ思い思いの仮面作りになりました。仮面を顔にあて舞踏会を想像しながら楽しむ様子が見られました。世界について探究を進めていた子どもたちは、自分たちが住んでいる「日本」にも日本ならではの文化がある事を知り、「和食」や「箸」についてグループごとに探究しました。箸を使い始めた児も多く、正しい持ち方や使い方を確認したり、実際にスポンジを掴んで実践みたりと、「やってみたい」「挑戦してみる」と意欲的に取り組む児の姿が増え、国や文化の探究から食育へも広がりが見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

親しみのない国についても探究を重ねることで、少しずつ理解を深め、国の名前を覚えたり、その国の言葉（挨拶）を使ってみたりと、国への興味関心が高まりました。「国旗」の存在も初めて知る子も多く、塗り絵を用意すると、図鑑を見ながら丁寧に塗り進める姿が見られました。色塗りをした国旗を並べて貼って見ると、同じ模様が入っていたり、似たような色を使っている国旗がある事がわかり、「おもしろい」「調べてみよう」と自ら探究を進める子もいました。子どもたちの気づきや発見を大切に、「どうしてだろう」と一緒に考え取り組むことで、子どもたちがより主体的に探究活動を進められていたと感じました。

### 【5歳児実施分】

問いを考える：

日本について子どもたちの知っていることを自由に話し合ってみよう。また発表していくなかで疑問に上がったことを調べてみよう。「日本ってどんな国？」

日本から世界に視野を広げ、世界の国について話してみよう。「国旗ってなに？どんな国旗があるのかな？」「世界の言葉で話してみよう」

探究活動の様子：

写真つきパネルや絵カードを使い、子どもたちが様々な国について知る機会をつくることから楽しみました。国旗の図鑑や地球儀を保育室に設置するとすぐに興味を持ち、「ここ知ってるよ」「テレビで見た」「行ったことある！」などと興味のある国について積極的に話したり、実際に海外に行った経験のある友だちや職員からその国について話を聞いたりして国への関心を深めていきました。国旗のマグネットや塗り絵も設置する事で、似ている国旗がある事に気が付いたり、同じ模様の国旗があることに疑問を持ったりする児がいました。5歳児ではクロームブックを使い、図鑑や地図には載っていないことを子どもたちが自由に調べることで、より興味関心が深まっていました。様々な国について探究を進める中で、ハロウィンやクリスマスが外国の文化である事を知り、発祥地での行事をイメージし想像を膨らませながら、園で保育者や友だちと一緒に行事に参加し楽しむ様子が見られました。日本の文化はどんなものがあるの？という子どもの疑問から、5歳児は紙漉き体験に行き、和紙に触れたり、お正月にはグループごとにお正月遊びを調べ、実際に遊んだりして楽しんでいました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

親しみのない国についても探究を重ねることで、少しずつ理解を深め、国の名前を覚えたり、その国の言葉(挨拶)を使ってみたりと、国への興味関心が高まりました。クロームブックを今年度初めて導入し、使い方や調べ方を子どもたちと確認し合いながら探究を進めたが、たくさんの情報の中から「じゃあこれはどうなの？」と次々に疑問が生まれ、子どもたちなりに調べたり考えたりすることを楽しむ姿がたくさん見られました。たくさんの国を調べる中で子どもたちの中に答えの出ないことも多くありましたが、考えたり想像したりする時間を大切に、また次の活動へとつなげていけるよう、機会をつくりやすく活動を続けていきたいと思いました。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児



# 5 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください

